

2024年2月19日発行（通算第752号）

世界情勢ブリーフィング

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

大谷翔平と山本由伸両選手のドジャーズ入団の話題が盛り上がっていますが、花巻東高の佐々木麟太郎選手のスタンフォード大進学のニュースにも驚きました。メジャーのみならず大学野球の段階から日本人が挑戦するとは（しかも全米トップクラスの名門大にフルスカラシップ）、その発想も含め、すごい時代になったものだと思います。

スタンフォードは私の母校でもあるのですが、タイガー・ウッズなど著名なアスリートを数多く輩出していることでも有名で、私も在学中にジムやゴルフコースなどスポーツ施設を利用していると、なんかすごいアスリートっぽい人がいて気分が高揚したり、タイガー・ウッズらもここにいたのかなあ・・・などとミーハーな妄想を膨らませたりしたものです。そういうわけで佐々木選手には一方的に親近感をおぼえているのですが（笑）、これからの活躍が楽しみです。

今週から「今週の一冊」「近況報告」という新コーナーを始めました。内容がこれまで以上に盛り沢山になってきたので、あらかじめ目次をお伝えします。

1. 先週の動き
 - ・ナワリヌイ死去
 - ・イスラエルとハマスの停戦交渉
 - ・トランプ裁判
 - ・インドネシア大統領選
2. 今週の動き
3. 今週の一冊
4. 近況報告
5. あとがき

先週の動き

2/11（日）

- ・米・イスラエル首脳電話会談
- ・バイデン大統領がTikTokのアカウントを開設
- ・オースティン国防長官がウォルター・リード軍医療センターに再入院
- ・ロシア軍がスペースXの通信衛星網「スターリンク」を使っていることを確認したとウクライナ国防省情報総局が発表
- ・フィンランド大統領選挙決選投票（ストゥブ元首相が勝利）
- ・スーパーボウル（ラスベガス）

2/12（月）

- ・米・ヨルダン首脳会談（ワシントンDC）
- ・トランプ前大統領が21年1月の連邦議事堂襲撃事件に関するトランプ前大統領の起訴について同前大統領の

主張する大統領の免責特権の適用を否定するワシントンDCの連邦控訴裁の判決の仮差し止めを最高裁に要請

- ・イスラエル軍がガザ最南部ラファでハマスが拘束していた人質2人を救出したと発表
- ・太平洋・島サミット閣僚会合（フィジー）

2/13（火）

- ・米国のバーンズCIA長官、イスラエルのモサドのバルネア長官、エジプト総合情報庁のカメル長官、カタールのムハンマド首相がガザの戦闘休止案について協議（パリ）
- ・オースティン国防長官がウォルター・リード軍医療センターから退院
- ・米上院がウクライナ支援、イスラエルへの安全保障支援、インド太平洋パートナーへの支援を含む953億4,000万ドルの支出法案を可決
- ・米下院がマヨルカス国土安全保障長官の弾劾決議案を可決
- ・米連邦下院のNY州選挙区の補選（民主党のトム・スオツツィ元下院議員が勝利）
- ・ロシア内務省がエストニアのカラス首相を含むバルト3国の政府高官を指名手配
- ・IEA閣僚理事会（パリ、～14日）

2/14（水）

- ・米下院情報特別委員会のマイク・ターナー委員長（共和党）が「国家安全保障上の深刻な脅威」を警告する声明を発表（ロシアの衛星の軍事能力に関する情報との報道）
- ・NY州地裁がトランプ前大統領の不倫の口止め料支払いに関する業務記録の改竄容疑の事件の公判を3月25日から開始すると決定
- ・イスラエル首相府がガザの戦闘休止についてハマスから新たな提案を受け取らなかったと表明
- ・イスラエル軍がレバノン南部で大規模な空爆を開始
- ・トルコ・エジプト首脳会談（カイロ）
- ・ウクライナ軍がクリミア半島南部アルプカ沖の黒海でロシアの大型揚陸艦「ツェーザリ・クニコフ」を撃沈したと発表
- ・北朝鮮が日本海上で巡航ミサイル数発を発射したと韓国軍合同参謀本部が発表
- ・韓国とキューバが外交関係を樹立
- ・インドネシア大統領選挙（プラボウォ国防相が勝利）
- ・パリの控訴裁がサルコジ元大統領に選挙法違反で禁錮1年の有罪判決

2/15（木）

- ・NATO国防相会合（ブリュッセル）
- ・英下院の補選（与党・保守党が2選挙区で敗北）
- ・北朝鮮の金与正・朝鮮労働党副部長が岸田首相の訪朝に言及する談話を発表

2/16（金）

- ・ミュンヘン安全保障会議（ミュンヘン、～18日）
- ・米中、英中外相会談（同）
- ・ワイス特別検察官がバイデン大統領とハンター・バイデンの汚職疑惑に関するFBIの情報提供者アレクサンダー・スミルノフを虚偽証言等の容疑で起訴
- ・NY州地裁がトランプ前大統領に対しトランプ・オーガニゼーションの金融詐欺により3億5,490万ドルの罰金、3年間の企業経営禁止等の判決
- ・米民主党のマンチン上院議員が大統領選への不出馬を表明
- ・中国の劉建超部長とロシアの与党「統一ロシア」のメドベージェフ党首が会談（ロシア）
- ・ロシアの反政府活動家ナワリヌイが死亡したとロシア当局が発表
- ・独・ウクライナ首脳会談（ベルリン）
- ・仏・ウクライナ首脳会談（パリ）
- ・ウクライナ軍がドネツク州のアウディーイウカからの撤退を発表
- ・イスラエル軍がガザ南部ハンユニスのナセル病院に突入

2/17（土）

- ・G7外相会合（ミュンヘン）

・アフリカ連合（AU）首脳会議（アディスアベバ、～18日）

●ナワリヌイ死去

ロシアの著名な反政府活動家であるアレクセイ・ナワリヌイが死亡したとロシア当局が発表しました。散歩のあと気分が悪くなり、医師が蘇生措置を行ったが死亡が確認されたとのこと。47歳でした。

長年にわたりプーチン大統領を批判し続けた活動家の突然の死去は国内外に衝撃を与えました。その意義と今後の展望についてコメントします。

また、ロシアをめぐるのは、米下院情報特別委員会のマイク・ターナー委員長（共和党）が「国家安全保障上の深刻な脅威」を警告し、バイデン政権に機密情報の解除を求める異例の声明を発表しました。ターナーの警告はロシアの宇宙での軍事能力に関するものであり、核兵器を利用した対衛星システムの可能性もあるとメディアは報じています。この件についてもコメントします。

ナワリヌイの死亡が発表されたのは、ロシア大統領選の1か月前というタイミングでした。プーチンが圧勝することは確実ですが、それでも混乱のリスクを最小限に抑え、得票率も投票率も可能な限り高めることをプーチンは強く望んでいるはずです。それは反戦を唱える唯一の候補であるナデジディン元下院議員の出馬を認めなかったことにも表れています。ナワリヌイの死亡についても、こうした選挙を見据えた措置であることを強く疑わせます。

とはいえ、長きにわたり収監され（北極圏にまで送られ）、情報の発信も制限されているナワリヌイに対して、今そこまでの対応をする必要があったのかという疑問もわきます。ここでおそらくもう一つ関係していたファクターは、ミュンヘン安全保障会議です。NATOとウクライナのリーダーが集まり、西側の結束とロシアへの対抗をアピールする象徴的な舞台に向けて、背筋が凍るようなニュースをぶつけてきたという見立てです。

ミュンヘン安全保障会議では、ハリス副大統領が演説する数時間前にナワリヌイ死亡の一報が飛び込んできました。しかもユリア夫人もちょうどヒラリー・クリントン元国務長官とのパネルディスカッションに参加しており、夫の死の報を受けて急遽スピーチを行うことになりました。

数日前にトランプ前大統領が、NATOのある加盟国のリーダーに対して、国防費を増額しなければ守ることはしない、それどころかロシアに何でもやりたいようにさせると促す！と発言したことも思い出されました。NATOの未来に暗い影を落とす点で、何か不吉な符号を感じさせるものでした。

<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1756478167928524857>

こうしたタイミングを図って米欧に衝撃を与えることが合理的な行動といえるのかといえば、ますます米欧の態度を硬化させるだけのように思えるので、ロシアにとって得があると言えるのか、疑問に感じる方も多いと思います。しかしプーチンであれば、過去の言動を考慮すると、やりそうなことではあります。トランプになれば状況が変わることも見越して、米欧のリーダーたちを弄んでいるかのような印象も受けます。

また、米欧が態度を硬化し、ロシアを強く非難するのは当然のことですが、では制裁を強化するのかといえば、そこには限界があるのが現実です。すでに制裁の強度は目一杯まで上げているので、強化する余地は限られているからです。おそらくできることは、ナワリヌイの死に関係している個人や団体へのターゲット制裁や、すでに課している制裁の実効性を高める措置になるでしょう。

ではロシア国内での影響はどうか。全国的に大規模な抗議活動が発生する可能性を指摘する声もありますが、これが国内を揺るがすほどの騒乱になることは考えにくいです。まずプーチンを声高に批判し、反戦感情を公に表明してきたロシアの活動家は、そのほとんどが亡命を余儀なくされるか、投獄されています。このためデモを主導する勢力はすでに抑え込まれています。

ナワリヌイの死去の発表直後にいくつかの都市でソ連時代の政治弾圧の犠牲者の記念碑に献花を始めたグルー

プがいましたが、すぐに解散させられ、場所も封鎖されました。逮捕者も出ています。治安部隊はデモや騒乱が起きた時にはすぐに対応する構えを見せており、人々も弾圧を恐れて慎重に行動するでしょう。

ロシア政府の反応もローキーでした。プーチンは当然死去を知っていますが、コメントをせず（元々プーチンはナワリヌイを名前で呼ぶことがなく、相手にしない態度をとってきました）、ペスコフ報道官も死因を解明すると述べるにとどめました。与党「統一ロシア」の政治家らはナワリヌイの死は米国と欧州のせいだ、などと例によって西側批判のレトリックに結び付けたましたが（そのロジックはよく分かりませんが、ただナワリヌイの死によって最も利益を得ているのは西側だと主張しています）、その程度でした。邪魔者は消し去ればそれで足りるとして、あえて事を荒立てることもないというスタンスでしょう。

ロシアをめぐる動きについては、冒頭述べたとおり、先週、米下院情報特別委員会のターナー委員長がロシアの脅威を強調した発言したことも注目されます。バイデン政権は、米情報機関が数か月前にロシアの新しい対衛星兵器の開発計画を認識し、ロシアと協議を行おうとしていると説明しましたが、差し迫った脅威ではないとして、ターナーが主張するほどの警戒感はないという見方を示しました。サリバン大統領補佐官もコメントを避けました。

一方、ジョンソン下院議長も、バイデン政権に対応は促すが、国民に警戒を呼び掛ける必要はなく冷静に対処すべきだとして、ターナーから距離を置く姿勢を見せました。このように、ターナーの言動に対しては、バイデン政権も共和党幹部も相手にしないようなスタンスを見せていますが、これは何を意味するのか。

ターナーは共和党の下院議員ですが、ウクライナ支援を声高に支持する一人であり、今月初めには議会代表団を率いてキーウを訪問していました。おそらく彼の狙いは、ロシアの脅威を強調することで、ジョンソンに対してウクライナ支援法案の採決に向けて圧力をかけることだったと考えられます。

上院は先週、ウクライナ、台湾、イスラエルへの安全保障支援の法案を70対29で可決しましたが、下院ではジョンソンが法案の採決に対して消極的な態度を崩していません。上院も下院もかなりの数の共和党議員がウクライナ支援を支持していますが（上院で法案に賛成した数も予想以上でした）、ジョンソンは一部の極右議員からの反発を恐れて採決に踏み込もうとしない状況が続いています。

こうした中でターナーは、ウクライナ支援の手続きを進めるために動いたと考えられます。しかしロシアが新たな核戦力を配備しようとしているという指摘は、ウクライナ支援の論拠にはなるものの、ジョンソンを動かすほどの影響があるかはやはり疑問です。とはいえ、下院共和党の中でも早く支援法案を通さなければならないという問題意識があることが示された動きといえます。

実は、議長であるジョンソンが採決に拒否しても、下院には強制的に採決を行う手続きが存在します。「discharge petition」といって、過半数の議員が賛成すれば可能になる制度で、ウクライナ支援を支持する共和党議員はこの活用を真剣に検討し始めています。

一方、共和党議員の一部のみならず、民主党議員の多数が賛成しなければ、この手続きは進められません。ところが、アレクサンドリア・オカシオ・コルテスら民主党の進歩派はイスラエル支援を拒絶しているため、上院の支援法案に明確に反対しています。ガザ戦争がウクライナ支援のブレーキになるという構図になってしまっているわけです。

こうなると、ウクライナ支援とイスラエル支援を切り離して新たな法案を採決する必要が出てきます。しかし政府閉鎖のデッドラインも近づき、歳出法案はパッケージで検討する方向にますます傾くことになるので、容易なことではありません。上院が新たな法案を可決するほどの意欲を見れば、ウクライナ支援が成立する可能性は高くなりますが、それでも良くて五分五分になるというところでしょう。

●イスラエルとハマスの停戦交渉

イスラエルとハマスの停戦交渉は難航を続けています。先週、米国、イスラエル、エジプト、カタールの情報機関トップが再びカイロで協議を行いました。新たな進展はみられませんでした。

ネタニヤフ首相はハマスから新たな提案を受け取らなかったと表明し、イスラエル軍はガザ最南部のラファに侵攻する構えを見せています。イスラエル軍はレバノン南部で大規模な空爆も開始しました。

こうした動きを踏まえ、ガザ戦争の最新の展望を解説します。

ネタニヤフは依然として強硬路線を強調しており、一切の妥協の余地はないという姿勢を崩していないように見えます。ただこれは実際のところ、ハマスの交渉圧力をかけることが主な目的と考えられます。ラファ侵攻の構えを明確にしているのも、ハマスとカタルーニャ仲介国の意思決定に影響を与える狙いを含んだものとみられます。

ラファ侵攻が甚大な被害をもたらすことは、イスラエルもハマス指導部もよく認識しています。ネタニヤフ政権はさらなる人質解放を実現しなければならないというプレッシャーを強く受けており、ハマスも有利な条件を引き出すために交渉を続けています（最ももめている論点は、ハマスが解放する人質とイスラエルが解放するパレスチナ人の囚人の比率、それにイスラエルが解放する囚人が具体的に誰になるかとみられています）。したがって、双方の強硬なレトリックにもかかわらず、短期的な戦闘休止が実現する可能性はなお高いと考えられます。

戦闘休止が実現すれば、フーシ派とヒズボラの攻撃は少なくともその期間は停止するでしょう。しかし、問題は戦闘休止がどこまで続くかです。ネタニヤフの政権維持への渴望、戦時内閣内の意見の不一致、ガザでのイスラエル軍の戦争目的の未達成、レバノン国境の不安定などを考えると、イスラエルはまだ当面は作戦を続けるつもりと考えられます。当初の大規模動員であればイスラエルは2〜3か月しか戦闘を続けられないと予想されたのですが、動員のレベルを柔軟に変更していることもあり、戦争の長期化がベース・シナリオになってきているということです。

そうすると、米国政治にも影響が及ぶことになります。イスラエルの攻撃が続く限り、バイデン政権は民主党左派からの批判を免れることができず、大統領選に向けて大きな懸念材料になります。

バイデン政権は、イスラエルが難民キャンプへの空爆やレバノンでの白リン使用疑惑によって国際法に違反したかどうかを調査していますが、これはネタニヤフ政権に対する不満を募らせ、民主党進歩派に配慮する必要性を強く認識していることを示すものです。イスラエル支援法案に人道的要件を課そうともしていますが、前項で述べたとおり、アレクサンドリア・オカシオ・コルテス下院議員やバーニー・サンダース上院議員はイスラエル支援そのものに非常に厳しい立場を貫いており、ガザ戦争の長期化は民主党の分裂を深刻化させるリスクを高めています。

大統領選については、以下の記事で述べたとおり、バイデン対トランプであれば、現時点では五分五分、トランプの裁判などを考慮するとわずかにバイデン有利と考えられます。しかしバイデンの高齢の問題がさらにクローズアップされ、ガザ戦争が長期化すれば、トランプ有利という見方に傾くと考えられます。

・「2024年の展望（1）」（1/7）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=10674>

第三候補の不確実性もあり（先週はマンチン上院議員がようやく不出馬を決断しました）、まだまだ確定的なことは言えませんが、中東情勢がバイデンにもたらすリスクは、地域全体に紛争が拡大するシナリオを含め、深刻さを増しています。引き続き注視する必要があります。

●トランプ裁判

トランプ前大統領がポルノ女優のストーミー・ダニエルズに不倫の口止め料を支払い、その事実を隠ぺいするため業務記録を改竄した容疑で起訴された事件について、NY州の裁判所が3月25日から公判を開始すると決定しました。

トランプは自ら裁判所に出廷し、裁判の却下か延期を求めていましたが、マーシャン判事はその請求を退けました。米国の元大統領が初めて刑事裁判で法廷に立つこととなります。

トランプの刑事裁判は4件あります。以下の記事でそれぞれの事件の意義と展望について解説しましたが、今回の動きを含め、最新の状況を踏まえてあらためて解説します。

- ・「2024年の展望（1）」（1/7）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=10674>

上記記事で述べたとおり、（1）NY州の不倫口止め事件、（2）ジョージア州の大統領選結果転覆事件、（3）機密文書事件、（4）連邦議会襲撃事件という4つの刑事事件がありますが、このうち最も重要なのは、連邦議会襲撃事件です。この事件だけは、選挙前に有罪判決（実刑判決）が言い渡される可能性がある上、政治的インパクトも極めて大きいと考えられるからです。

当初は、この事件の公判がスーパーチューズデーの前日である3月4日に予定され、一番早く始まる予定だったのですが、トランプの訴訟戦術もあり、延期されることになりました。新たな期日は未定です。そして冒頭述べたとおり、NY州の不倫口止め事件が3月25日に始まることになったので、この事件が最も早く進む見通しになりました。

しかし、上記記事で述べたとおり、この事件は政治的にはトランプにとってほとんどダメージになりません。それどころか、政治的動機に基づくものという印象を与えることになり、他の裁判の正当性にもネガティブな影響を与える恐れすらあります。

とはいえ、公判が始まれば、トランプも頻繁に出廷し、毎日のように報道の大きな部分を占めることとなります。そうすると、トランプ対バイデンの世論調査にも何らかの影響が出てくることが予想されます。その結果は、トランプをめぐる他の法的問題についても、選挙戦にどのような意味をもってくるかを見通す上で重要な指標になるでしょう。

また、ジョージア州の大統領選結果転覆事件については、トランプの弁護団は事件を担当するファニ・ウィリス地方検事が他の担当検事と不適切な恋愛関係にあったとして罷免するよう求めています。この事件は大統領選までに決着する可能性がほぼないため、選挙への影響は限られています。しかし、トランプ陣営が検察側の不適切さを告発することで、他の事件についても政治的動機によるものだという主張に説得力を与える可能性があります。

これまで述べてきたとおり、トランプの裁判において今最も注目すべきは、連邦議会襲撃事件の審議のスケジュールです。しかし他の事件の動向も、前述のとおり間接的にこの事件のインパクトに影響を及ぼす可能性があるため、そうした視点からフォローする必要があります。

- インドネシア大統領選挙

インドネシアで大統領選挙が実施されました。民間調査機関の開票速報によれば、プラボウォ・スビアント国防相が約58%の票を獲得し、勝利を宣言しました。

最終結果はまだ明らかになっていませんが、6月に予定される決選投票を待たずにプラボウォが当選を決める可能性が高い状況です。前回の記事（以下のリンク参照）で述べたとおりの展開でした。

- ・「インドネシア大統領選挙」（2/12）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=10737>

次期大統領は10月20日に就任する予定です。今後の展望について解説します。

プラボウォの勝利は想定内でしたが、それにしても思った以上に票が伸びました。鍵を握っていたのはプラボ

ウォの主要な支持層である若年層ですが、選挙がお祭りのように盛り上がる中で（選挙イベントは台湾の選挙のように華やかなショーの様相を呈していました）、伝統的に投票に消極的な傾向がある若年層が予想以上に投票に向かったものと推測されます。

プラボウォは基本的にジョコ大統領の路線を継承するので、外資導入、資源ナショナリズム、首都移転といった政策面で大きなブレはありませんが（ジョコ政権は独立100周年にあたる2045年にインドネシアは先進国になる！というスローガンを掲げており、国内がその熱気に包まれている感があります）、ガバナンスの強権化という点には不安が付きまといます。ただ国会ではプラボウォの政党は3位にとどまり（1位は闘争民主党、2位はゴルカル）、連立で過半数を確保できるとしても、闘争民主党が強力な野党になる可能性が高く、立法面で権力集中を実現することは難しいと考えられます。

プラボウォのスハルト時代からの人権侵害の経歴は米欧との関係では懸念材料であり、またハードコアなナショナリストとして、選挙戦においてプラボウォは反米欧的な感情をあらわにしていました。ただ現実主義者であり、国防相として米国との交流は重ねてきたので、ここは大きなリスクにはならないと考えられます。外交政策はこれまでどおり、米国と中国との間でバランスをとり、特に経済・貿易面では実利を追求しようとするでしょう。

プラボウォはジョコのおかげで勝てたようなものなので、ジョコ一族が強い影響力を発揮するという見方もありますが、いったん大統領になればプラボウォが自分の権力を固めようとするのは間違いなく、ジョコの影響力は思ったほど強くはならないと予想されます。息子のギブランが副大統領になるので、おそらく8か月間の移行期間の中で、ジョコは副大統領の権力を強化しようとするでしょうが、こうした動きがどこまで現実化するかが次期政権の力関係を見る上で重要なファクターになってきます。

今週の動き

2/18（日）

- ・タイのタクシン元首相が仮釈放

2/19（月）

- ・米大統領の日（米市場休場）
- ・EU外相理事会（ブリュッセル）
- ・日・ウクライナ経済復興推進会議（東京）

2/21（水）

- ・米下院中国特別委員会のマイク・ギャラガー委員長（共和党）ら米国の議員団が訪台
- ・G20外相会合（リオデジャネイロ、～22日）

2/24（土）

- ・G7サミット（オンライン）
- ・米大統領選挙・共和党のサウスカロライナ州予備選

今週の一冊

お勧めの本、印象に残った本をご紹介します。最近読んだものが多くなると思いますが、昔読んだもので思い出深かったものも適宜取り上げる予定です。ジャンルにはこだわらず、リクエストがあればそれも参考にします。調子が出てきたら映画やドラマなどにも広げてみたいと思っています。

■ 奥山真司『新しい戦争の時代の戦略的思考 国際ニュースを事例に読みとく』

戦略的思考から最新の世界情勢を読み解く奥山先生ならではの新著。事例と引用が豊富で、独自の視点からの分析が詰め込まれており、一般向け入門書を謳っているようですが、なかなか濃い内容です。

個人的に特に興味深かったのは米連邦議会議事堂襲撃事件（米国では「September 11」のように「Jan. 6」と言われる）の分析。陰謀論や労働者の貧困などよりも、白人が自分たちの権利を「奪われる」という感覚が最も重要な要因だった（トランプはその苦境を救ってくれる存在に映った）ことを説得的に論じています。

この「奪われる」という感覚は、イスラム過激派のテロについても重要な要因として指摘されるところです。なぜオサマ・ビンラディンのような富豪がテロリストになるのか。これは貧困などよりも別のイデオロギー、おそらくは自分たちが西側の支配によって「奪われてきた」という思想に突き動かされてきたことを示しています。議事堂襲撃事件も「テロ」と言ってもおかしくない事件であり、この点には通じるところがあります。経済格差などだけでは語り尽くせない、重い問題です。

近況報告

最近の仕事やプライベートについて、徒然なるままに書いてみます。どこまで面白いことが書けるかわかりませんが（汗）、まずはやってみようと思います。

私の仕事は読んだり書いたりすることが大部分を占めています。家も仕事場にしており、打ち合わせやインタビューもオンラインが多くなっているので、家から一歩も出なくとも用が足りてしまうという一日もあったりします。

これでは体に良くないということで、コロナの頃からですが、ジムとゴルフに頻繁に行くようになりました。ジムは仕事前の早朝に行くことが常で、だいたい週3回行っています。肩、背中、胸と脚と部位を日ごとに分けており、最近は体の横幅を広げることに凝っていて、胸筋であれば、昔はベンチプレスばかりやっていた、重さにもこだわっていたのですが、それよりもダンベルフライやプルオーバーが多くなりました。あと懸垂をワイドグリップで10キロのプレートをぶら下げてやっています。これは非常に効きます。

ただ最近、福山雅治さんがベンチプレス110キロを上げると聞いて、やはり重さも追求したいと思うようになり、ベンチプレスもたまにやるようになりました。回数よりも重さ重視で、ケガだけはしないようにフォームに気を付けながら、90キロぐらいでやっています。徐々に慣らして福山レベルにもっていきたいと思っています（笑）。

ゴルフは先週は2回ラウンドに行きました。スコアは100、94でした。楽しければ良いというスタンスなのでスコアはあまり気にしないのですが、カッコ気持ち良く打ちたいとは思っているので、スイング理論だけは詳しくなっています（笑）。しかしゴルフは沢山歩く良い機会になりますし（歩くことは筋トレと並んで健康にとって何より重要と思います）、友達付き合いにも便利、高齢になっても続けられるので、なかなか良い趣味と思っています。

あとがき

■ Best 2024 Super Bowl commercials: All 59 ranked according to USA TODAY Ad Meter (2月12日付USA Today)

<https://www.usatoday.com/story/sports/Ad-Meter/2024/02/12/best-super-bowl-2024-commercials-ad-meter-rankings/72538932007/>

スーパーボウルは前回の記事（以下のリンク参照）で述べたとおり、テイラー・スウィフトの観戦が大きな話題になりましたが、恋人のトラビス・ケルシーが所属するカンザスシティ・チーフスが勝利。試合後に二人が抱き合って喜ぶというまさにドラマのエンディングのような光景になりました。

- ・「あとかき」（2/5）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=10733>

バイデン大統領もちょうどこのタイミングでTikTokのアカウントを開設し、初投稿はスーパーボウルについて語りました。Xでも上記記事で紹介したトランプ支持者の陰謀論を念頭に、「我々が思い描いたとおりだ」と投稿。他にも「またチーフスをホワイトハウスに招待したい」「スーパーボウル観戦にはスナックが欠かせないが、同じ値段なのに量が減っている、こんな『シュリンクフレーション』はけしからん！」などスーパーボウルネタを連投していました。

<https://www.tiktok.com/@bidenhq/video/7334529963066019114>

<https://twitter.com/JoeBiden/status/1756888470599967000>

ちなみにTikTokのプロフィール画像とXの投稿でバイデンが目からレーザービームを出しているのは、「ダーク・ブランドン」というミームです。

<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1564811389843042305>

もともとは「レッツゴー・ブランドン」という保守派がバイデンを批判するためのスローガンがあり（ブランドンはナスカーのレーサーの名前で、ブランドンのインタビュアーがレースの観客の「ファック・ジョー・バイデン」という掛け声を「レッツゴー・ブランドン」と聞き間違えたことが話題となり、この表現がバイデン批判の掛け声として使われるようになった）、またトランプ支持者はバイデンが目からレーザービームを出すミームを使っていたのですが、バイデン支持者はこれを逆手にとり、目からビームを出すバイデンを「ダーク・ブランドン」というヒーロー（？）のミームに変えたのです。

スーパーボウルの投稿やTikTokでこのダーク・ブランドンを使ったのは、おそらく若者に受けるからと踏んだのでしょう。たしかになかなかのインパクトで、「ふざけている」という批判もあったようですが、話題を呼ぶことには成功したようです。

それと、スーパーボウルといえば、以下の記事で述べたとおり、CMですね。これまで以下の記事で紹介してきました。

- ・「スーパーボウル」（20/2/10）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=8339>

- ・「あとかき」（22/2/21）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=9786>

- ・「あとかき」（23/2/20）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=10308>

今年のCMですが、イスラエル政府がスーパーボウルのタイミングに合わせて、「ハマスに誘拐された人質を取り返す」というテレビCM（以下のリンク参照）を出したことが物議を醸しました。冒頭にアメフトの選手が登場し、父親たちを取り戻すというメッセージが出てくることから、スーパーボウルをプロパガンダに利用しようとする意図は明らかでしょう。

■ To all the dads held in captivity by Hamas

<https://www.youtube.com/watch?v=1xUTwH7h2ZE>

ただこのCMはスーパーボウルを中継するCBSのすべてのネットワークに流れたわけではなく、公式なスーパーボウルのCMではないという位置づけのようです。冒頭のリンクに59の作品が出ていますが、そこには含まれていませんでした。

冒頭のリンクにある作品にはランキングがつけられていますが、1位は『ツインズ』のコンビだったシュワちゃん和ダニー・デビートが共演している保険のCMでした。シュワちゃんのドイツ語訛りが定番ネタとしてイジられています。

2位のダンキン・ドーナツのCMは、ベン・アフレック、妻のジェニファー・ロペス、親友のマット・デイモン、トム・ブレイディ、ジャック・ハーロー、ファット・ジョーという豪華キャスト。イジられキャラのベンが今回もダサかつよく去っていくというものでした。

4位のウーバー・イーツのCMには『フレンズ』のレイチェルとロスのコビが登場。やはりこのドラマは米国人にとっては永遠に鉄板ですね。さりげなくベッカムとヴィクトリア夫妻やアッシャーが出てくるのにも驚かされます。

このようにスーパーボウルのCMは、毎年、豪華キャストを見ながら米国で何がウケるかが分かるという、社会の勉強にもなる素材です。上記「スーパーボウル」（20/2/10）での「Groundhog Day」とか、米国のクラシックともいえる映画や伝統行事といったある意味での「教養」がないと面白さが分からないわけです（上記ダンキン・ドーナツのCMでも『グッド・ウィル・ハンティング』を知っているとより楽しめます）。

そういうわけで、こういうCMから英語や米国社会を学ぶというのも面白いのではないかと思います（私が英会話塾など経営していたらぜひ使いたいものです）。ちなみに上記「スーパーボウル」（20/2/10）のときもカンザスシティ・チーフスがサンフランシスコ・49ersを破っていました。トランプ大統領（当時）のカンザス州についての勘違いも懐かしく思い出されますね。

The Gucci Post（Copyright 2024 グッチーポスト株式会社）

■ Facebook <https://www.facebook.com/GPWorldBriefing>

■ X（旧Twitter） <https://twitter.com/JDWorldBriefing>

■ ブログ <https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

■ サロン <https://guccipost.co.jp/blog/guccipost/?p=640>

■ メール jd.world.briefing@gmail.com

■ 編集部 inquire@guccipost.co.jp